

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100125	事業の開始年月日	平成22年10月1日	
		指定年月日	平成22年10月1日	
法人名	株式会社ウイズネット			
事業所名	グループホームみんなの家・横浜上永谷松風			
所在地	(234-0056) 神奈川県横浜市港南区野庭町240			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成23年7月19日	評価結果 市町村受理日	平成23年10月17日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1493100125&SCD=320
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人に合わせたレクリエーション(塗り絵・カードゲーム等々)を実施しています。また、唯一お寺の敷地内の立地条件により外気浴や季節により景色を楽しめる事がご利用者様に人気があります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成23年8月22日	評価機関 評価決定日	平成23年9月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、横浜市営地下鉄線上永谷駅から徒歩約10分の寺の境内の静かな環境に立地し、平成22年10月に開所し、ほぼ丸1年が経過します。</p> <p>運営法人は高齢社会を迎え福祉・介護・住宅のニーズに応え、首都圏にグループホーム、通所介護、訪問看護、介護付き有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅などの高齢者施設を多数運営管理し、そのノウハウを地域社会の福祉づくりに役立てるように努めています。</p> <p>《優れている点》 医療連携体制の指定を受け、医師、看護師と連携し、24時間連絡体制をとり、安心して医療を受診できる体制にあります。</p> <p>運営法人のシニアセラピーの方が月2回来所し、利用希望者の顔や足に気持ちの良い刺激を与え、心身の健康法の一つの秘策のサービスを支援しています。</p> <p>入浴には、利用者の身体状況に合わせ、運営法人特製のリフトが設置され、職員には入浴介助の軽減が図られ、利用者には安心してゆったりと入浴できるように支援しています。</p> <p>《工夫している点》 食事は外部業者が厨房を使用して調理し、利用者の好み、栄養バランスを考慮して温かく美味しい食事の提供に努めています。職員はその分利用者と一緒に接する時間の余裕ができてゆったりと介護・介助に当たっています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上永谷松風
ユニット名	1F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前にスタッフ全員で理念を考えて決めました。また、理念は事務所に掲示してありスタッフ全員が確認できるようにしている。	理念は開設当初に管理者と職員の話合いにより決め、1階・2階の事務室に掲示しています。管理者は新入職員の研修時に説明し、理解を深め実践に結びつけています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加するなどして地域の方と交流を持てるようにしている。又、散歩等で近隣の公園に行き接する機会を持てるようにしている。	町内会に加入し、地域の盆踊り、清掃、防災訓練に参加しています。地域の方が傾聴ボランティアに週1回来所し、利用者と話し合っています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年8月を予定に地域懇談会という場を設置し実践していく予定。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的（2カ月に1回）に運営推進会議を実施して活動報告や地域に対して発信できるよう努めている。	運営推進会議は奇数月に定期的開催しています。会議では、事業所の運営面や行事内容を説明し、意見交換を行い、地域の情報収集を行い、理解と支援を得ています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告等において連絡をしているが特に密にしているとは云えない。	管理者は港南区の高齢障害支援課へ運営面や実情を報告し、助言や指導を仰いでいます。神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修案内などの連絡を受けています。また、港南区のケアマネージャー協議会にも加入しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議を設け身体拘束について話し合っている状況。	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、正しい理解に努めています。1階・2階のフロア出入口は施錠していないが、玄関は安全面や防犯上、家族に説明し了解を得て施錠し、近隣の交番や最寄りの駅にも挨拶し協力をお願いしています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議・職員会議・身体拘束廃止委員会等で虐待に関係した事柄を話す時間を設けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度において、全体的に周知しているわけではない事があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際して、十分な時間を要してご利用者様・御家族様に質疑応答の時間を作っています。又、契約前にも入居前において不明な点があるようならば電話等で対応している事もあります。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的（2カ月に1回）に家族会を実施し質疑応答の中で意見を出して貰い運営の参考にしています。	苦情や要望の担当者は、重要事項説明書に明記し、契約時に説明しています。家族会を偶数月に開催し、意見や要望を聴いて運営面に反映しています。家族の来訪時には声かけし、利用者の生活状況を伝え、要望を聴いています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・職員会議以外にも意見等があればその都度話を聞く時間を取り対応している。	管理者は月1回の全体会議やフロア会議に、日常業務の意見や提案を聞き、業務に反映しています。提案により、町内会の運動会や盆踊りに参加しています。法人の地域担当スーパーバイザーが巡回し、事業所の要望を聞き事業に反映しています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件に於いて特に整備している事はないが必要に応じ懇談会を催すようにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内により職員に振り分け研修への参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の勉強会等で交流を持ち意見交換や情報交換をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の話に時間を掛けて傾聴するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様においては面会時や電話連絡等で話を傾聴するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前（面接時・入居時）に話を傾聴し必要なニーズを取り上げられる様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に家事作業に於いて、職員が「する」ではなく一緒になって「手伝う」ということから始めています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を密にして何かある度に「報告・連絡・相談」を欠かさないようにしています。一方的にならず御家族様と一緒にと言う考えをとっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等で人との関わりを切らないよう配慮している。	利用者は家族と行きつけの美容院へパーマをかけに行く方もいます。家族の方の了解を得て、友人や知人が来訪し、居室で歓談しています。年賀状が届き、返信をポストに投函するなどの支援も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやご利用者様同士の雑談ができるよう声掛けを通して環境を整えるよう配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではサービス利用の終了に於いて、退居理由によりフォロー及び相談・支援できる状況になっていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のご利用者様に出来る範囲に於いて自己決定を念頭にレクリエーションから入浴・食事等々十分なコミュニケーションを図りご利用者様中心になるよう努めている。	職員は日常の行動や表情の中から、意向や希望を汲みとるように努めています。意向を自分から伝えにくい方には、居室で話したり、入浴時のゆったりとした時に聞いています。利用者の歩き方の速度により、体調が良いか悪いかも察知しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調を始めサービス開始前の聞き取り及びサービス開始からのコミュニケーションの中で個々の生活環境等を把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24) 項目に続き生活のリズムを崩さないよう配慮しながら現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な職員会議等でカンファレンスを実施しているが、ご家族様を交えてという事に関し事実上困難な為、あらかじめご家族様に対し聞き取りを実施して参考にしている。</p>	<p>基本情報を基にアセスメントし、本人・家族の意向や要望を汲みとり、モニタリングし、カンファレンスを行い、計画を作成しています。見直しは通常3～6か月毎に、変化があれば、随時状況に応じて行っています。</p>	<p>介護計画は本人・家族の要望を入れ、主治医・看護師の所見を採り入れて、職員間でカンファレンスを行い、モニタリングして作成することなどが期待されます。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録・送りノート等の活用により職員間同士の情報共有とし統一したケアや見直しを行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>特記事項が発生した時は速やかに管理者・ホーム長・サービス担当提供者に報告、連絡、相談をするようにしている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>日々の散歩等で地域資源の把握に努めて出来る範囲で支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に往診を受けている。それ以外にも、身体状況の変化に於いて担当病院との連携を密にできるよう連絡をしている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医による医療を継続して受診できるように支援しています。管理者が家族に替わって通院介助することもあります。医療情報は個人記録へ記載し共有しています。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携看護師の健康管理を受けている。その時にご利用者様の現状の報告・連絡・相談を実施し必要に応じ通院等へのアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化に於いて、常に協力病院との連絡を密にし、入院時のコミュニケーション等を実施。退院までのプロセスを定期的に連絡を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院～医療連携看護師～御家族様～ホームで話し合い、事業所で可能な範囲の対応を説明しながら対応している。	ターミナルケアは家族の要望があればできるだけ支援を行う方針です。急変時は主治医・看護師、家族・職員が話し合い最善の方法を採る方針です。	重度化や終末期、急変時における医療処置の対応や方針を家族とできるだけ早い機会に話し合い、書面にて同意を得ておくことが期待されます。ターミナルケアについての職員の勉強会も期待されます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現時点では応急手当等の訓練は実施出来ていないが、緊急時対応マニュアルとして事務所に掲示し誰でも対応できるようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な運営推進会議・消防訓練等で実施していく予定。開設半年により地域との関わりが少ないのが現状であり夜間想定避難訓練等への地域参加は皆無であるのが実情である。	防災・避難訓練は消防署の指導を得て実施しています。地域との協力体制は運営推進会議を通じて呼びかけ、訓練には民生委員が参加し協力を得ています。災害時に備えてランタン型ランプ、電池などの備品は準備してあります。	非常災害時に備えて、食料、飲料水などの備蓄が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方という事を大切にしながら声掛けや接遇を心掛けている。	職員は入職時に守秘義務に関する誓約書を提出し、日常よりプライバシーを損ねることのないように言葉づかいに配慮しています。個人情報の書類は、施錠のできる書庫に保管しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人により着る範囲で自己決定ができるよう声掛けし努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等を一方的に決めるのではなくご利用者に聞きながら、決められるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時にご利用様に選択できるように声掛けをしている。また、混乱してしまう時は声掛けにより促している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時前に食事の盛付けや後片付けを職員と一緒に実施している。	利用者は職員と一緒に盛りつけ、配膳、片付け、食器拭き、テーブル拭きを行っています。職員と同じ物を一緒に食べ、誕生日にはおやつにどらやき、ケーキなどの好きな物を提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分摂取量を記載した用紙に沿いながら必要に応じ支援している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週一回、歯科医及び歯科衛生士により口腔内の確認をして頂き、助言を頂く。助言を元に必要に応じ声掛けや支援をしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>対象者において、定期的にトイレ誘導を実施。排泄状況の把握に努めている事で支援をしている。</p>	<p>排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、あるいは利用者の身振り、表情などでさりげないトイレ誘導を行っています。声かけをすることで、極力オムツの使用や排泄の失敗を防ぐなどの支援を行っています。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>対象者に於いては、乳製品の摂取や必要に応じ内科医に報告し薬の提供を受けたりしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ある程度入浴の日程を決めている。状況により希望者がいる時には入浴者の変更も考慮している。</p>	<p>入浴は週2回、入浴時間は原則午後ですが、利用者の希望に合わせてるように努めています。リフト浴もあり、利用者の身体状況に応じた入浴方法を行っています。入浴をしたがらない方には、声かけの人や時間を変えるなどの工夫をしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体的・精神的状態により、必要時には声掛けにより休息するなどの支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報表は常に確認できるようにしており必要に応じ全スタッフが把握できるように配慮している。また不明確な時は医師に報告・連絡・相談できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに合ったレクリエーションを提供できるよう努めている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	環境の変化や身体状態により外出への提供を心掛けている。また、ご家族様との協力により外出の機会を設けている。	地域の夏祭り、初詣などの行事の外出、あるいは近隣の公園など散歩に出かけています。しかし、日常的な外出は職員の人数などでまだ十分に行われているとは言えない状況にあります。	日常の外出だけでなく本人の希望に応じた遠出や買い物、外食などの外出の支援も期待されます。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等への支援はしているが、金銭的な確認は全て職員がしているので、直接ご利用者が金銭管理をすることはしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはしていない状況。電話に於いては必要に応じ職員が間に入り支援している。個人により携帯電話の使用を認めている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓を職員が徹底し環境に配慮した空間作りを心掛けている。	食卓や床は木目調の落ち着いたものを使用しています。居間の壁には利用者の作品のぬり絵、習字などを飾り、季節感を漂わせています。温度や湿度にも気を配り、利用者のそぶりや職員の体感などで温度や湿度の調整を行なっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の構造上により困難であり事実上工夫ができていない。フロア内でソファを設置し自由に腰掛けられるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて御家族に協力して頂き安心して落ち着いて過せるよう嗜好に合わせた物を用意して配置している。	居室には、利用者が入居前に使用していた馴染みの家具など、あるいは家族の写真、仏壇などを飾り、居心地よく過ごせるようになっています。居室の掃除は職員ばかりでなく、できる方には利用者にも行ってもらい清潔になっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所により張り紙で理解できるように配慮し混乱しないようにしている。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上永谷松風
ユニット名	2F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前にスタッフ全員で理念を考えて決めました。また、理念は事務所に掲示しておりスタッフ全員が確認できるようにしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加するなどして地域の方と交流を持てるようにしている。又、散歩等で近隣の公園に行き接する機会を持てるようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年8月を予定に地域懇談会という場を設置し実践していく予定。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的（2カ月に1回）に運営推進会議を実施して活動報告や地域に対して発信できるよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告等において連絡をしているが特に密にしているとは云えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議を設け身体拘束について話し合っている状況。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議・職員会議・身体拘束廃止委員会等で虐待に関係した事柄を話す時間を設けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度において、全体的に周知しているわけではない事があります。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際して、十分な時間を要してご利用者様・御家族様に質疑応答の時間を作っています。又、契約前にも入居前において不明な点があるようならば電話等で対応している事もあります。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的（2カ月に1回）に家族会を実施し質疑応答の中で意見を出して貰い運営の参考にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・職員会議以外にも意見等があればその都度話を聞く時間を取り対応している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件に於いて特に整備している事はないが必要に応じ懇談会を催すようにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内により職員に振り分け研修への参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内の勉強会等で交流を持ち意見交換や情報交換をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の話に時間を掛けて傾聴するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様においては面会時や電話連絡等で話を傾聴するようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス前（面接時・入居時）に話を傾聴し必要なニーズを取り上げられる様にしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	特に家事作業に於いて、職員が「する」ではなく一緒になって「手伝う」ということから始めています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を密にして何かある度に「報告・連絡・相談」を欠かさないようにしています。一方的にならず御家族様と一緒にと言う考えをとっている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等で人との関わりを切らないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやご利用者様同士の雑談ができるよう声掛けを通して環境を整えるよう配慮している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではサービス利用の終了に於いて、退居理由によりフォロー及び相談・支援できる状況になっていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のご利用者様に出来る範囲に於いて自己決定を念頭にレクリエーションから入浴・食事等々十分なコミュニケーションを図りご利用者様中心になるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調を始めサービス開始前の聞き取り及びサービス開始からのコミュニケーションの中で個々の生活環境等を把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24) 項目に続き生活のリズムを崩さないよう配慮しながら現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な職員会議等でカンファレンスを実施しているが、ご家族様を交えてという事に関し事実上困難な為、あらかじめご家族様に対し聞き取りを実施して参考になっている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録・送りノート等の活用により職員間同士の情報共有とし統一したケアや見直しを行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>特記事項が発生した時は速やかに管理者・ホーム長・サービス担当提供者に報告、連絡、相談をするようにしている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>日々の散歩等で地域資源の把握に努めて出来る範囲で支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的に往診を受けている。それ以外にも、身体状況の変化に於いて担当病院との連携を密にできるよう連絡をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携看護師の健康管理を受けている。その時にご利用者様の現状の報告・連絡・相談を実施し必要に応じ通院等へのアドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調の変化に於いて、常に協力病院との連絡を密にし、入院時のコミュニケーション等を実施。退院までのプロセスを定期的に連絡を取り合っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院～医療連携看護師～御家族様～ホームで話し合い、事業所で可能な範囲の対応を説明しながら対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現時点では応急手当等の訓練は実施出来ていないが、緊急時対応マニュアルとして事務所に掲示し誰でも対応できるようにしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な運営推進会議・消防訓練等で実施していく予定。開設半年により地域との関わりが少ないのが現状であり夜間想定避難訓練等への地域参加は皆無であるのが実情である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方という事を大切にしながら声掛けや接遇を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人により可能な範囲で自己決定ができるよう声掛けし努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等を一方的に決めるのではなくご利用者に聞きながら、決められるよう努めている。又、ご本人様のペースに合わせて個々の生活のリズムを作っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時にご利用様に選択できるように声掛けをしている。また、混乱してしまう時は声掛けにより介助をし提供している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時前に食事の盛付けや後片付けを職員と一緒に実施している。又、検食記録をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分摂取量を記載した用紙に沿いながら必要に応じ支援している。摂取量の低いご利用者様には積極的に声掛けし水分調整をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週一回、歯科医及び歯科衛生士により口腔内の確認をして頂き、助言を頂く。助言を元に必要に応じ声掛けや支援をしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>対象者において、定期的にトイレ誘導を実施。排泄状況の把握に努めている事で支援をしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>対象者に於いては、乳製品の摂取や必要に応じ内科医に報告し薬の提供を受けたりしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ある程度入浴の日程を決めている。状況により希望者がいる時には入浴者の変更も考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体的・精神的状態により、必要時には声掛けにより休息するなどの支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報表は常に確認できるようにしており必要に応じ全スタッフが把握できるように配慮している。また不明確な時は医師に報告・連絡・相談できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに合ったレクリエーションを提供できるよう努めている。新聞を読みたい人は新聞を提供、体操の時間を設けている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	環境の変化や身体状態により外出への提供を心掛けている。また、ご家族様との協力により外出の機会を設けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等への支援はしているが、金銭的な確認は全て職員がしているので、直接ご利用者が金銭管理をすることはしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりはしていない状況。電話に於いては必要に応じ職員が間に入り支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓を職員が徹底し環境に配慮した空間作りを心掛けている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の構造上により困難であり事実上工夫ができていない。フロア内でソファを設置し自由に腰掛けられるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて御家族に協力して頂き安心して落ち着いて過ごせるよう嗜好に合わせた物を用意して配置している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所により張り紙で把握できるよう配慮し混乱しないようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流に関して未だに未開発な部分があるので、特に近隣の住民の方たちと接点を持っていないのが現状である。	定期的に町内会との行事参加を持ちグループホームの存在を周知していく。	定期的にグループホームを開放もしくは懇談会を開く事により近隣住民との関係を密にしていく。又、夜間想定避難訓練等で町内会の結びつきを図っていきたい。	12ヶ月
2	33	重度化・終末期における方針がホームとして明確になっておらず、また職員への周知徹底に至っていないのが現状です。	重度化・終末期に於いての対応の理解を職員及びご家族様へ周知徹底できるようにしていく。	職員へは定期的な職員会議等で勉強会を開いていく。ご家族様へは家族会等で議題に載せコミュニケーションを図っていく。	12ヶ月
3	49	日常的な外出支援において、散歩以外の外出の機会が殆どなされていないのが実情である。	2回/月は外食等の外出機会を作っていく。	誕生日会や買い物等で外出の機会を作り、外出を増やしていく。	9ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。